



岸本なお子
442-8751



田村ゆう子^新
481-7280

学校給食費の無償化



6月議会で市民から提出された陳情「国・都に学校給食無償化を求める意見書をあげることを求める陳情」は、委員会で公明党は趣旨採択を主張したものの、他議員全員が採択。

最終日の本会議でも趣旨採択を主張した公明党は退席したため、全会一致で採択され、国や東京都に意見を送付することとなりました。

3月議会で出された「給食無償化を求める陳情」は趣旨採択という結果だったため嬉しい前進です。

日本共産党は「義務教育は無償。全国市議会議長会も令和3年から国に財源措置を求めている。この動きを加速させるために地方議会から後押しすべき」と求め続けてきました。

無償化の動きは広がり23区では全区が実施を表明するもとで府中市も期間限定で無償化実施を表明しました。

「三多摩格差」を無くし、どの地域に住んでいても家庭状況に左右されず、安心して給食がとれるようあきらめずに求め続けていきます。



PFAS 関連の市内井戸水検査の予算が可決！

米軍横田基地で使用された泡消火剤が起因の「PFAS 汚染の実態把握のための市内の井戸水調査」の補正予算が可決しました。

日本共産党は、万が一高濃度の結果が出た場合の農家などの民間井戸に対する水道水使用料や浄水器設置への支援策が協力を広げるためにも必要と求めています。

健康保険証存続を国や都へ求める陳情が採択！

命や人権に関わる重大なトラブルが続出しているマイナ保険証。多くの医療関係者が「紙の保険証を残すべき」と求めています。

反対した自民・維新、公明からは「トラブルは認識しているが今後起こらないよう気をつける。マイナ保険証は利便性が高い。」等の意見が出されましたが、多くの市民の不安が払拭されていないもとで、問題のない健康保険証を廃止する理由がありません。

採決の結果、賛成多数で採択されました。存続に向けて、今後も声をあげていきます。

令和6年度予算要望を提出しました

コロナ5類移行後も物価高騰が市民生活や営業にのしかかり、市議団あてにも暮らしへの不安や生きづらさをかかえる深刻な相談が相次いでいます。しかも若い方が苦しめるのが特徴です。日本共産党は「市民生活第一の市政運営」を求め250以上の項目での予算要望を提出いたしました。





PROFILE

市議6期(1995年～)長野県出身。
元美容師。県立臼田高校、窪田理美容専門学校卒。
日本共産党幹事長、文教委員、広域交通問題等特別委員会委員。議会報告実行委員会委員。
■市民の声を議会に届け、これまでと変わらずに暮らしと政治をむすんで、安心して過ごせるよう、がんばり続けます。

第2回定例会

「いのち・営業を守り、外環道工事の被害から市民を守れ」

いのちと暮らしを守る対策を5/30に提出「緊急要望書」「地域の声」をもとに質問。

●新型コロナウイルス感染症が収束していないばかりか、インフルエンザやヘルパンギーナなどの感染症も増えています。岸本議員は医師会とも協力し、どんな時でも対応できるように備えるべきと求めました。

●酷暑のもと、支援の対象外となった以前からの生保世帯だけでなく低所得者世帯へのエアコン購入費助成、電気代補助実施を求めました。

●飲料水への不安が広がっています。岸本議員はPFAS汚染に対する市の認識、市内の井戸水の調査、保育園や学校、公共施設への浄水装置

の設置等を求めました。

外環道の地盤補修工事に対する市民の不安解消を

●陥没事故が起きた東つつじヶ丘では8月から地盤補修工事が開始され、工事中の振動、騒音、低周波に対する市民の不安は終わっていません。

工事が進むにつれ、入間川で気泡の漏出、野川沿いでは事業者が管理者に報告なく、発見した複数の穴を勝手に埋め戻していた問題も起きています。

今後もこの問題は住民の声を聞き、市や事業者の姿勢を変えるためがんばります。

第3回定例会

「学校給食費、米軍ヘリの緊急着陸、現在の健康保険証の存続を」

学校給食費の無償化について

隣の府中市で「10月～翌年3月まで条件なしにすべての小中学校の学校給食無償化実施」が表明されたことを受け、岸本議員は長友市長に実施の決断を求めましたが、「東京都市長会でも財源措置を求めているが市単独は難しい」と繰り返すのみでした。

調布飛行場への米軍ヘリ着陸の常態化は許せません

今年6月・8月に調布飛行場へ米軍ヘリが緊急着陸したことを受け

て、府中・三鷹・調布の議員有志で、各市・東京都・防衛省へ申し入れを行い、岸本議員は「緊急着陸の常態化」をやめることを求めるべきと質問。調布市も東京都や米軍へ聞き取り・要請を行っていますが、特に米軍は「なしのつづて」とのこと。議会も市も、飛行場についての方向性は大きく違わないですが、東京都に依存している面が大きいことが改めて浮き彫りになりました。

マイナ保険証について

マイナンバーカードは義務ではな

いものの実質強制になっています。岸本議員は「不具合の実態や資格確認への対応、保険証存続を国へ求めるべき」と質問。市は「カードは任意、申請が基本。市民が安心して医療を受けられるように必要な方策は示されている」「紐づけによる誤登録はない。医療機関設置システムでの表示不具合は数件。資格確認証については国の方針通りに行う」という答弁にとどまりました。

6期目の議員生活が始まりました。

日本共産党は議席を減らしましたが、これまでと変わりなく、市民のみなさんの声を聞き、議会に届け、制度の改善につなげていくためにがんばります。

みなさんとともに、市政の動きをこれまで以上に厳しくチェックしていきたいと考えています。

議会
コラム

市議会の構成は、新人と2期目の議員で大半を占めています。制度のそのもの、何が問題なのか、日本共産党は議論を深めてきました。私たちは市民と力を合わせて「社会を変える」ことをめざしています。

毎日の生活の中で困ったことがある時は、ぜひご相談ください。

(岸本なお子)



PROFILE

市議 1 期。2023年初当選。兵庫県神戸市出身。夙川短大（現神戸教育大）卒。児童館、幼稚園、児童福祉施設で勤務。厚生委員、飛行場問題特別委員会委員、広報委員会委員

■コロナ禍を期に、国民にあまりに冷たい今の政治に疑問を持ちました。16年間、保育や福祉の仕事をしてきた経験を生かし、子どもたちが未来に希望が持てる社会をめざします。

第 2 回定例会

「子どもたちがより良い学校生活を送るための施策について」

学校施設の老朽化対策、トイレの改善を

●調布市内の小中学校28校中、ほとんどが築40年を経過しています。「公共施設マネジメント計画」では今後24年間で14校の改築計画しかありません。

田村議員は、保護者や子どもたちから「老朽化がひどい」という声を聞き、計画の前倒しを求めました。しかし資材の高騰などの理由から、残りの14校は24年の間「維持保全」とされたまま。子どもたちの安心・安全のためにも、災害時の避難所としての役割を果たすためにも早急に

改築を進めるべきと強く求めました。学校トイレに生理用品の設置を

●現在、保健室には生理用品が常備されているものの、トイレへの設置は6校のみ。田村議員は、生理用品を特別扱いするのではなく「あたりまえの日用品」となるようトイレへの設置を求めました。市は「衛生面や心理面への懸念の意見が出ている。慎重に対応していく」との答弁でした。

ひきつづき、学校環境改善のために求めていきます。



第 3 回定例会

「交通不便地域の対策について、社会的養護への理解と支援について」

ミニバス北路線、デマンド型交通について

●調布市には、交通不便地域の解消、高齢者の社会参加の促進を目的に市内3つの地域でミニバスを運行していますが、コロナ禍を機にミニバス北路線が大幅減便しています。

減便の影響を受けた住民の移動手段として始まった「巡回交通」ですが、利用者からの増便を求める声には答えないまま「ニーズが少ない」と判断し、「デマンド型交通」へ以降しようとしています。田村議員は、ミニバス事業へ十分な予算を投じる

こと、巡回交通の総括を求めました。

●デマンド型交通は利便性が高い一方で、抵抗を感じる方もいます。住民の理解と納得のために丁寧な説明会の実施を求めました。12月運行予定です。

サテライトオフィスの設置、里親制度への理解と支援を

●社会的養護とは、「保護者のない児童を公的責任で社会的に養育すること」です。近年の児童虐待件数の増加に伴い、調布市にも児童相談所の設置を求めましたが、残念ながら選定されませんでした。田村議員は、

サテライトオフィスの設置を求め、市は「東京都へ強く要望していく。」と答弁しました。

●里親制度とは「家族と離れて暮らす子どもを家庭に迎え入れて養育する制度」です。特定の大人との愛着関係を築くことができるとして推奨される一方で、理解や支援が追いついておらず、多くの里親さんが苦勞されています。

調布市は里親登録数が非常に多い自治体です。先駆的な理解促進の取り組み、支援の拡充をと求めました。

6月から市議会議員としての任期がスタートし、2回の議会を経験しました。「現場の声を届ける」という志を大切に、一般質問や陳情審議では現場を見に行くこと、当事者の話を聞くことを重視しました。経験と反省を活かしながら今後も初心を忘れずにがんばります。

議会では、どの会派がどのような態度をとる

議会 コラム

のかが、非常によくわかります。

安易に民営化やデジタル化を進めようとする会派もいる中で、日本共産党の議席の重要性を実感しています。是非、各会派の動向にも注目してみてください！

(田村ゆう子)



9月決算
議会

100億円もの「余裕資金」は市民生活に使うべき 令和4年度の一般会計決算に反対

令和4年度は、コロナ禍の影響に加え、物価高騰の打撃を受けた市民生活をどう支援していくのかが求められた年度です。市民の要望に応えた新規事業や支援事業は評価する一方で「調布市の豊かな財政力を活かすことができたか」という視点で見ればまだ不足していると言わざるを得ません。

特筆すべきは税金の使い方です。ここ10年での調布市の基金積立残高は、なんと233億円。異常な積立

額となっています。これだけの財力があるなら市民生活や中小零細事業者への支援に充てるべきではないでしょうか。

またグリーンホールの建て替え問題では「外階段の撤去について調布駅前広場の整備の関係で“2年先送り”を決断したことは当然」としつつ以下の2点を指摘しました。

①総合福祉センターの移転についてはバリアフリーやセンター機能の内容をハッキリ示さずに進めること

は認められない。

②まちづくりや公共施設の更新のために巨額の基金積立を行っているうえに都市計画道路の建設は、これまで「一路線ずつ手をつけ財政を圧迫させないように」と求め市は守ってきたが、現在は複数路線を何本も計画している。

税金の使い方を厳しく指摘し決算の認定に反対しました。

議員団の活動報告



「PFAS 汚染に関する要請」
「保険証存続を求める要請」
「学校給食費無償化を求める要請」等
日本共産党国会議員団と共に様々な
要請行動に参加しました。

三鷹、府中市議と
「調布飛行場への
米軍ヘリ緊急着陸
に関する要請」を
提出。



7/28、11/5に
「議会報告会」を開催。
お越し頂きありがとう
ございました！

外環道工事に関わり、野川沿いの
陥没部分を事業者が市に無断で埋
戻しをしていたことが発覚。国交
省から聞き取りを行いました。

